

電々ケーブル・関電引出管路埋設に伴う

市三宅遺跡発掘調査報告書

— 滋賀県野洲町市三宅・久野部所在 —

1982.3

滋賀県教育委員会

財團 滋賀県文化財保護協会

電々ケーブル・関電引出管路埋設に伴う

市三宅遺跡発掘調査報告書

— 滋賀県野洲町市三宅・久野部所在 —

1982

滋賀県教育委員会

財団 法人 滋賀県文化財保護協会

序

県下における埋蔵文化財の調査は、毎年倍増をつづけ、昭和57年現在、年間110件に達している。このため、どうしても現地調査が優先され、その調査成果である報告書の作成・刊行は、遅れがちとなっている。本書は、昭和57年度に実施した電々ケーブル・関電引出管路埋設に伴う事前調査の成果を収めたものであり、必ずしも十分なものとは言えないが、各方面において少しでも活用願えれば幸いである。なお、発掘調査に協力をいただいた日本電信電話公社近畿電気通信局・関西電力株式会社ならびに現地調査に御協力いただいた関係者各位に御礼申し上げたい。

昭和57年3月

滋賀県教育委員会

文化財保護課長

外 池 忠 雄

例　　言

1. 本書は、野洲町大字久野部、大字市三宅に所在する、市三宅遺跡について、昭和57年度に実施した2地点の発掘調査報告書である。
2. 本調査は、日本電々公社（第一章）と株式会社関西電力（第二章）の依頼に基づき、滋賀県教育委員会が、財団法人滋賀県文化財保護協会の協力を得て実施した。
3. 調査および報告書作成については、滋賀県教育委員会事務局文化部文化財保護課技師大橋信弥が担当したが、ほかに、大崎隆志氏をはじめ、西藤崇浩、杉江裕尋、上田秀治、野上透、山本三良の諸君が参加した。
4. 本報告書は、大橋が執筆し、校正には安岡扶紀氏を煩した。

目 次

序

例 言

第一章 電々ケーブル埋設に伴う市三宅遺跡の調査

I	はじめに	1
II	調査の経過	2
III	調査の結果	2
IV	出土遺物	1 1
V	まとめ	1 2

第二章 関電紙王 S/S 引出管路埋設に伴う市三宅遺跡の調査

I	はじめに	1 5
II	調査の結果	1 6
III	まとめ	2 1

挿 図 目 次

第1図	位 置 図	1
第2図	トレンチ設定全図	3
第3図	トレンチ設定図 (1)	5
第4図	各トレンチ断面実測図 (1)	9
第5図	出土遺物実測図	11
第6図	位 置 図	15
第7図	トレンチ設定図 (2)	17
第8図	各トレンチ断面実測図 (2)	19

図 版 目 次

図版一	T - 8	近景(東より)	T - 8	検出状況(西より)
図版二	T - 10	近景(西より)	T - 10	検出状況(西より)
図版三	T - 11	近景(西より)	T - 11	検出状況(西より)
図版四	T - 12	近景(西より)	T - 5	拡張区近景(西より)
図版五	T - 4	拡張区近景(南より)	T - 4	拡張区断面(南より)
図版六	T - 6	拡張区近景(南より)	T - 3 (D)	調査状況(北より)
図版七	T - 3 (E)	近景(北より)	T - 3 (D)	近景(西より)
図版八	T - 3 (D)	近景(西より)	T - 3 (C)	近景(西より)
図版九	T - 3 (C)	近景(東より)	T - 3 (C)	近景(西より)
図版〇	T - 3 (C)	断面(西より)	T - 3 (E)	断面(西より)

第一章 電々ケーブル埋設に伴う
市三宅遺跡の調査

I. はじめに

市三宅遺跡は、野洲町大字市三宅に所在する集落跡で、野洲川北流の右岸微高地に位置している。昭和49年に実施された、県営は場整備事業に際し、大量の土器の出土があり、昭和56年から実施された、日本アイビーエム野洲工場内の調査においても、弥生時代から鎌倉時代に到る遺構・遺物の存在が明らかになっていた。また、久野部遺跡については、市三宅遺跡の北に隣接して所在し、これまで数次にわたって調査がなされ、弥生時代後期から鎌倉時代に到る集落の変遷が明らかになっている。

今回、電々公社が、この地域において、野洲・中主局間ケーブル方式埋設工事を計画され、市三宅遺跡のほぼ中央を貫通することとなったため、きわめて限られた部分ではあるが、事前調査を実施することとなった。



第1図 位 置 図

II. 調査の経過

調査は、昭和57年5月13日から8月23日まで断続的に実施した。工事工程の関連もあり、まずマンホール部分の調査を12ヶ所において実施し、つづいて、既掘削の及んでいないマンホールの前後を2ヶ所、さらに閑電の引出管路が並行して入る、北野小学校用地の西側の地区について、全面的な調査を実施した。

調査は、小型のバッホーを使用して、補装部分および、路床の置土を除去、旧耕土以下については、一部を除いて、人力により掘り下げた。そして遺構が検出されなかった場合は、バックホーにより、さらに掘り下げ、下層遺構の有無を確認した。

III. 調査の結果

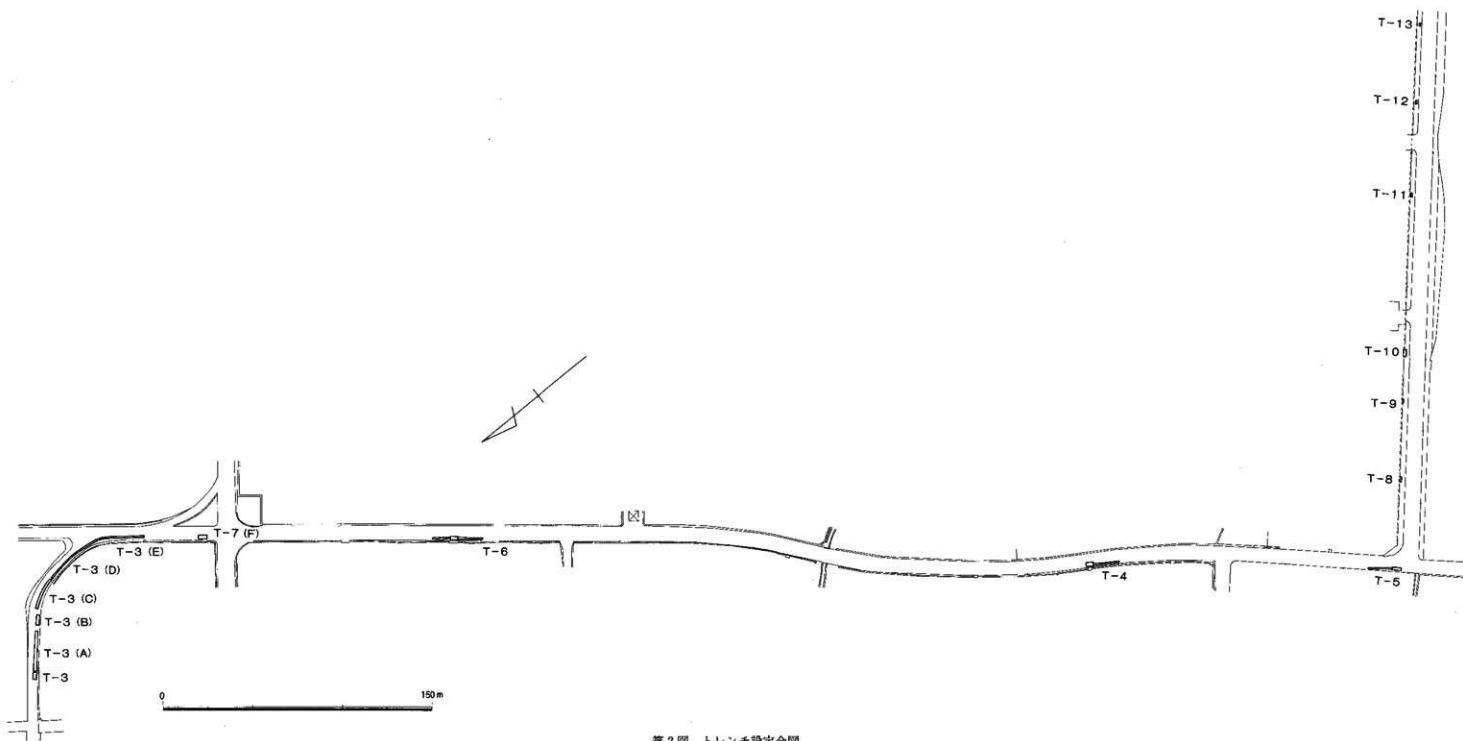
(1) マンホール部分の調査

T-1 調査対象地の北端に位置するマンホール部分で、長さ4m、幅2mのトレンチを設定した。層序は、補装部分と、その路床をなす山ズリが、約80cm堆積し、その下に旧耕土が、約20cmに圧縮されてみとめられた。この旧耕土を除去すると、青灰色粘土が表われ、一時期の地山と考えられたため、精査したが、遺構、遺物の検出はなく、さらに掘り下げたが、以下50cm以上青灰色粘土がつづき、トレンチの幅から、これ以上、掘り下げるのは危険と考え中止した。

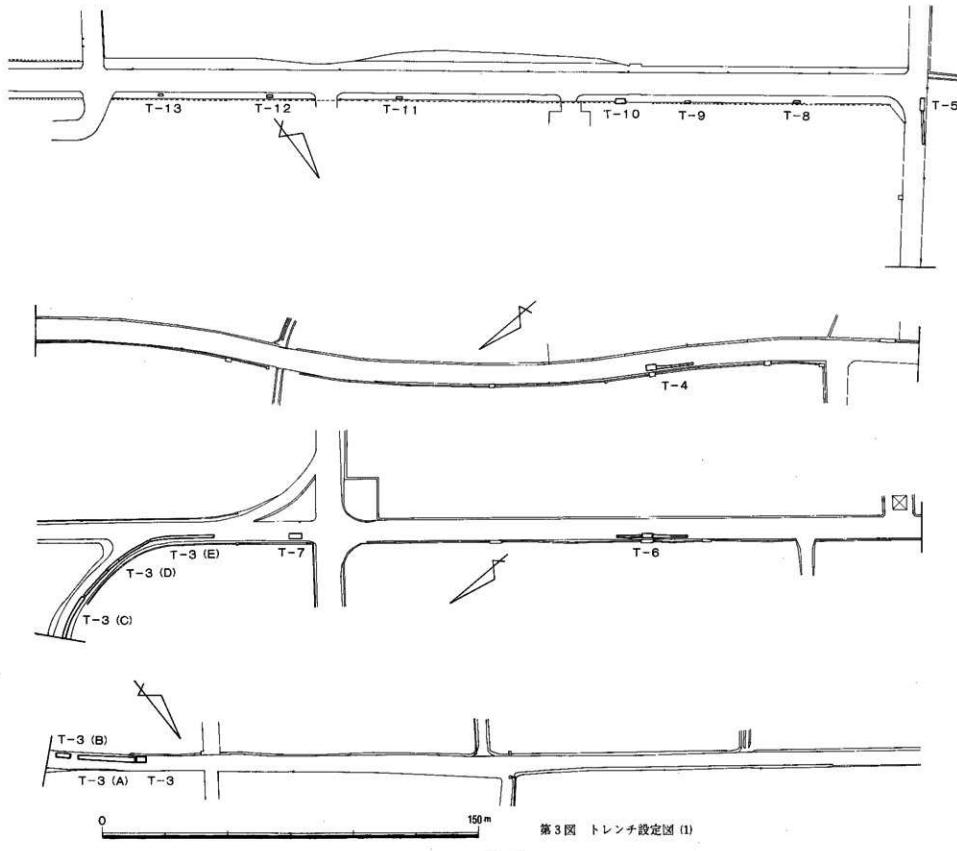
T-2 T-1の東、約140mに位置するマンホール予定地で、長さ4m、幅2mのトレンチを設定した。層序は、T-1とはほぼ同様で遺構・遺物の検出はなかった。

T-3 T-2の東、約140mに設定したトレンチで、長さ4m、幅2mをはかる。T-1、T-2と同じく、補装および路床が約80cm、その下に旧耕土が20cm、ついで床土とみられる暗灰褐色粘質土が約20cmみられ、その下に灰褐色砂質土が厚く堆積していた。このうち、最下層より、古代末から中世に通有な黒色土器塊、土師器皿の破片が若干出土した。

T-4 T-6の南175m、IBM野洲工場の西に位置するトレンチで、長さ4m、幅2mをはかる。補装および路床のズリが約60cmで、その下に暗灰色粘質砂土



第2図 トレンチ設定全図



第3図 トレンチ設定図(1)

が40cmあり、その下は青灰色粘質砂土の地山が厚く堆積する。第2層は遺物包含層で、古代末から中世の土器器皿片などが若干出土した。なお地山には、性格不明の小ピット（径10cm）が数ヶ所検出された。

T-5 T-4の南160mに設定した、長さ4m、幅2mのトレンチで、土層はT-4にはほぼ一致する。遺構検出段階で溝状遺構とみられていたものは、掘り下げてみると、最近の鋤あととみられるに到った。

T-6 T-4の北175mに設置したトレンチで、長さ4m、幅2mをはかる。土層は、補装、路床が約60cm、その下に旧耕土とみられる青灰褐色粘土が約20cm、その下に暗青色砂質土・灰褐色砂質土が、それぞれ約10cm、その下に暗灰色粘土が厚くみられる。このうち旧耕土より、近世陶磁が出土するのみで、他からは遺物の出土はなかった。

T-7 T-6の北140mに設置したトレンチで、長さ4m、幅2mをはかる。擾乱が激しく、遺構・遺物の検出はなかった。

T-8～T-13 IBM野洲工場の南側の補道部分に設置したトレンチで、長さ1.5m～2m、幅0.5m～1mである。土層は補道建設段階の擾乱が強く、約60～80cmにわたってみられた。そして、その下に約10cm余の暗灰色粘土、その下に厚く青灰色粘土がみられ、遺構面は削平をうけている可能性が強かった。

(2) 拡張区の調査

T-6 拡張区 既掘削を受けていない、T-6の南北に、それぞれ長さ7.5m、5m、幅1mのトレンチを設定して、調査を実施した。土層は、ほぼT-6に準ずるが、南半の深さ55cmで、暗茶褐色の安定した層を検出したが、遺構・遺物は発見できなかった。なお、この上層は、砂質土で、新しい時期の氾濫ともみられる。

T-5 拡張区 T-5の北に、幅1m、長さ7mのトレンチを設定したが、既掘削が50cmと深く、全面に砂層を検出、遺構・遺物の発見はなかった。なお、土層はT-5にはほぼ一致する。

T-3 拡張区 T-3の東については、遺構の存在が有力であったので、全面的な調査を実施することとし、関西電力ケーブル埋設予定地と合せて、幅1m前後で

実施した。調査の都合上、A～Eの5地区に分けて、順次調査をすすめた。

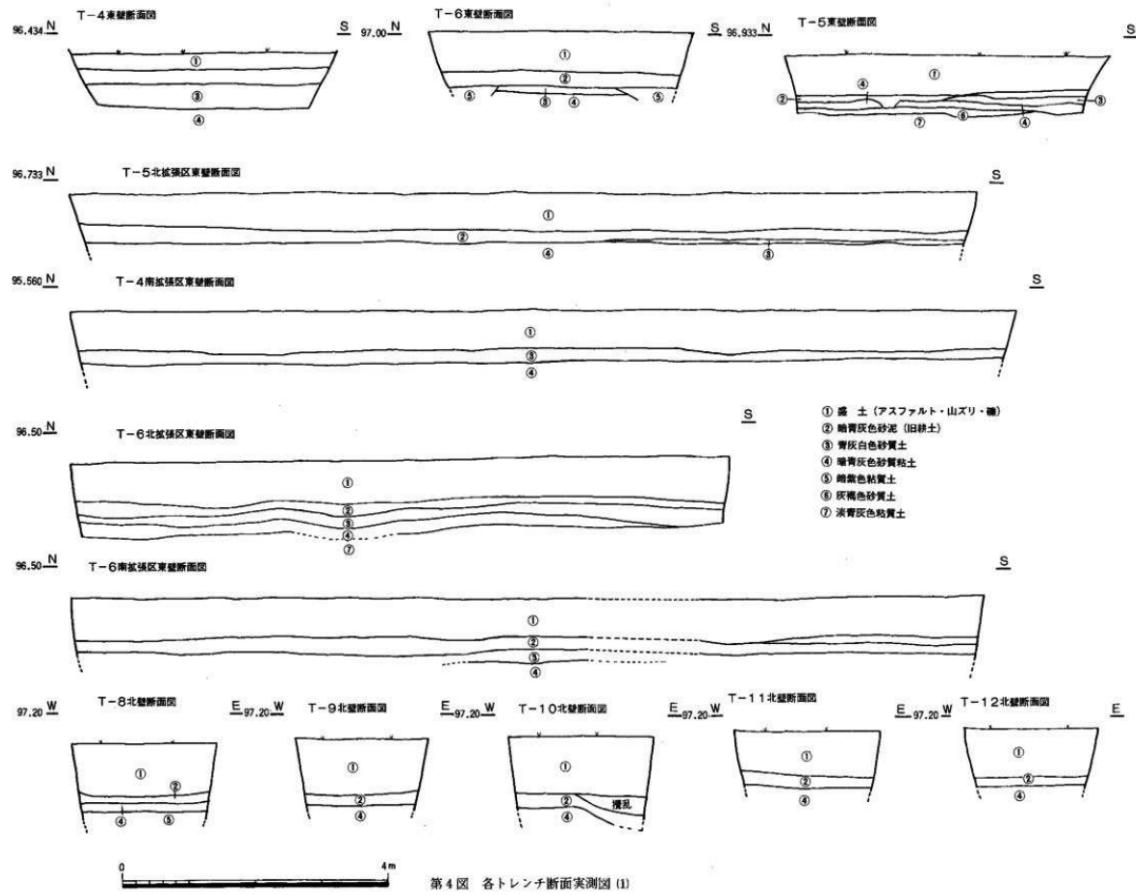
まずA区では、土屑等、T-3ときわめて類似しており、黒色土器塊、土師皿片が灰褐色砂質土より出土した。中世には、旧河道のあと、沼沢地状のたまりになっていたとみられる。

B区は攪乱が強く、十分な調査はできなかった。

C区は、旧耕土を除去した段階で、暗灰褐色粘質土の安定した地山を検出したので精査したが、若干の中世土器片を検出ただけで、明確な遺構は発見できなかつた。

D区は、C区で検出されていた粘土層の地山が、ほぼ中央で消失し、砂礫層が検出された。粘土層を除去すると、やはり砂礫層が表われ、砂礫層の上に、一部粘質土が形成されていることが明らかになった。

E区は、閑電のケーブルの埋設もあって、予定の南半のみの調査となつた。ここでは旧耕土の下に砂質土が広がり、その内部より、若干の古式土師器片が出土した。この部分も、旧河道の一部であるとみられる。



第4図 各トレチ断面実測図(1)

IV. 出土遺物

調査によって出土した遺物は、若干の古式土師器片と、古代末から中世に通有な黒色土器塊・土師器皿が少量出土したのみであった。ここでは、後者について、概要を述べる。

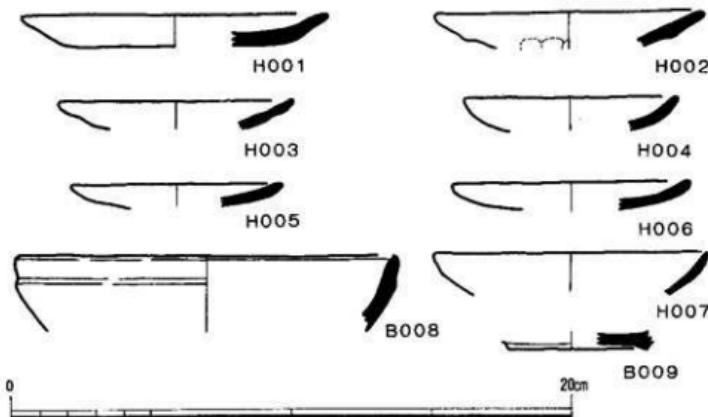
土師器皿A（H 001） 口縁部がやや外弯し、底部は平底状を呈する。他にくらべ、やや口径が大きい。

土師器皿B（H 002・H 003） 口縁部は直線的にのび、端部を丸くおさめる。底部は不明であるが平底か。

土師器皿C（H 004～H 006） 口縁部がやや内弯するもので、H 004がやや深い。底部は平底とみられる。

黒色土器皿（B 007） 口縁部が内弯する。やや深い内外面黒色の小皿で、底部は平底とみられる。

黒色土器塊（B 008・B 009） 口縁部は、内弯気味にのび、内面に一条の沈線をめぐらす内黒の塊である（B 008）。底部は平底で、断面三角形の低い高台がつく（B 009）。この種のものとしては、やや時期の下るものか。



第5図 出土遺物実測図

V. まとめ

以上、概略を述べたように、調査はきわめて限られた部分であったため、一部を除いて掘削予定範囲内に、掘り下げもとどめた。この結果、若干の土器片は検出したものの、明確な遺構を検出するには到らなかった。この地域にあっては、鎌倉時代以前に、大規模な洪水があり、それ以前の遺構は、その下に埋没しているとみられ、野洲川の河道が、やや安定した、中世以降は、沼沢地状のたまりとなり、やがて開田されることになったのではなかろうか。ただ、このような推測をより裏付ける痕跡は、今回の調査では明確にできなかった。今後の調査、研究の進展を待ちたい。

第二章 関電祇王 S/S 引出管路埋設に伴う
市三宅遺跡の調査

I. はじめに

本調査は、野洲郡野洲町市三宅に所在する市三宅遺跡について、関西電力ケーブル埋設工事に先立って実施した発掘調査である。市三宅遺跡は、従来、弥生時代の遺跡として周知され、本調査地は、その北西端にあたる。また調査地の東北には、弥生～室町時代の久野部遺跡が広がっており、その西南端にもあたるのである。

調査は、先行して実施した、電々ケーブル埋設に伴う調査によって、遺構の存在が有力視されたため、電々ケーブルに伴う調査と並行して、全面的な調査を実施することにした。調査は、昭和56年8月6日から8月25日まで、一部中断をはさんで実施した。



第6図 位 置 図

II. 調査の結果

調査は、電々ケーブルに伴う調査で設置した、T-3の北側に、A～Eの5ヶ所のトレンチを設定して、順次調査をすすめた。

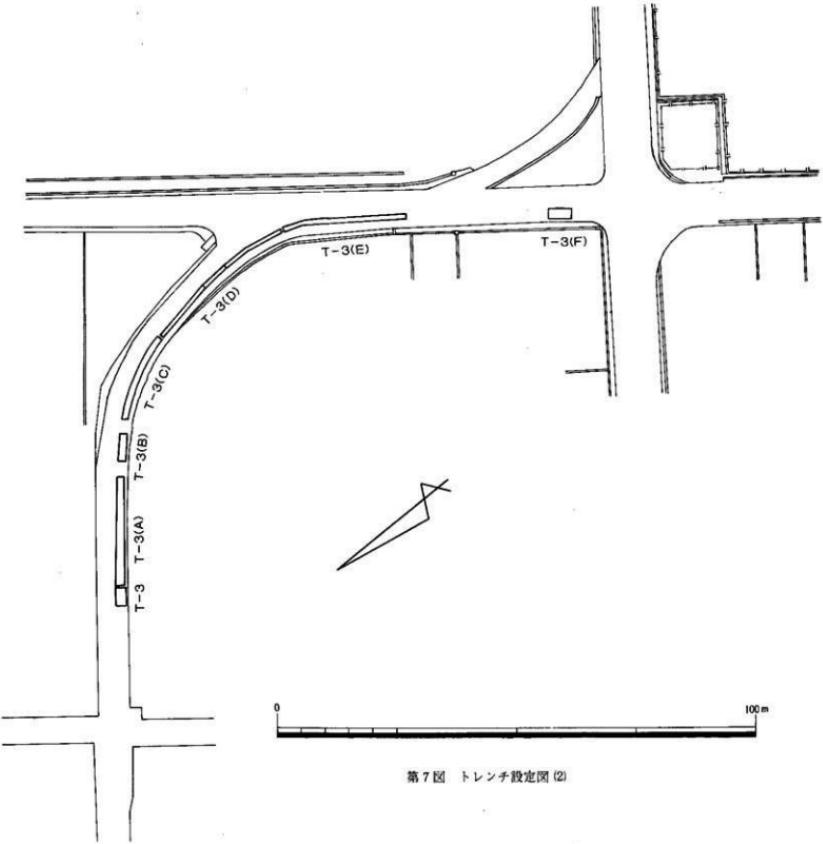
A区 T-3の東側に設定したトレンチで、T-3と類似した土層を示す。すなわち、補装および路床が約80cmあり、その下に旧耕土とみられる暗茶色砂泥が約20cm、旧床土とみられる暗灰褐色粘質土が約20cm、そしてそれ以下には灰褐色砂質土が厚く堆積している。そしてこの灰褐色砂質土より、黒色土器塊、土師器皿の破片が若干出土をみた。ただし、これらは流入物とみられ、この地域がある時期、旧河道なり沼沢地となっていたことを示している。

B区 A区の東に隣接して設定したトレンチであるが、近代における用水工事等により大幅に削平を受けており、調査を実施できなかった。

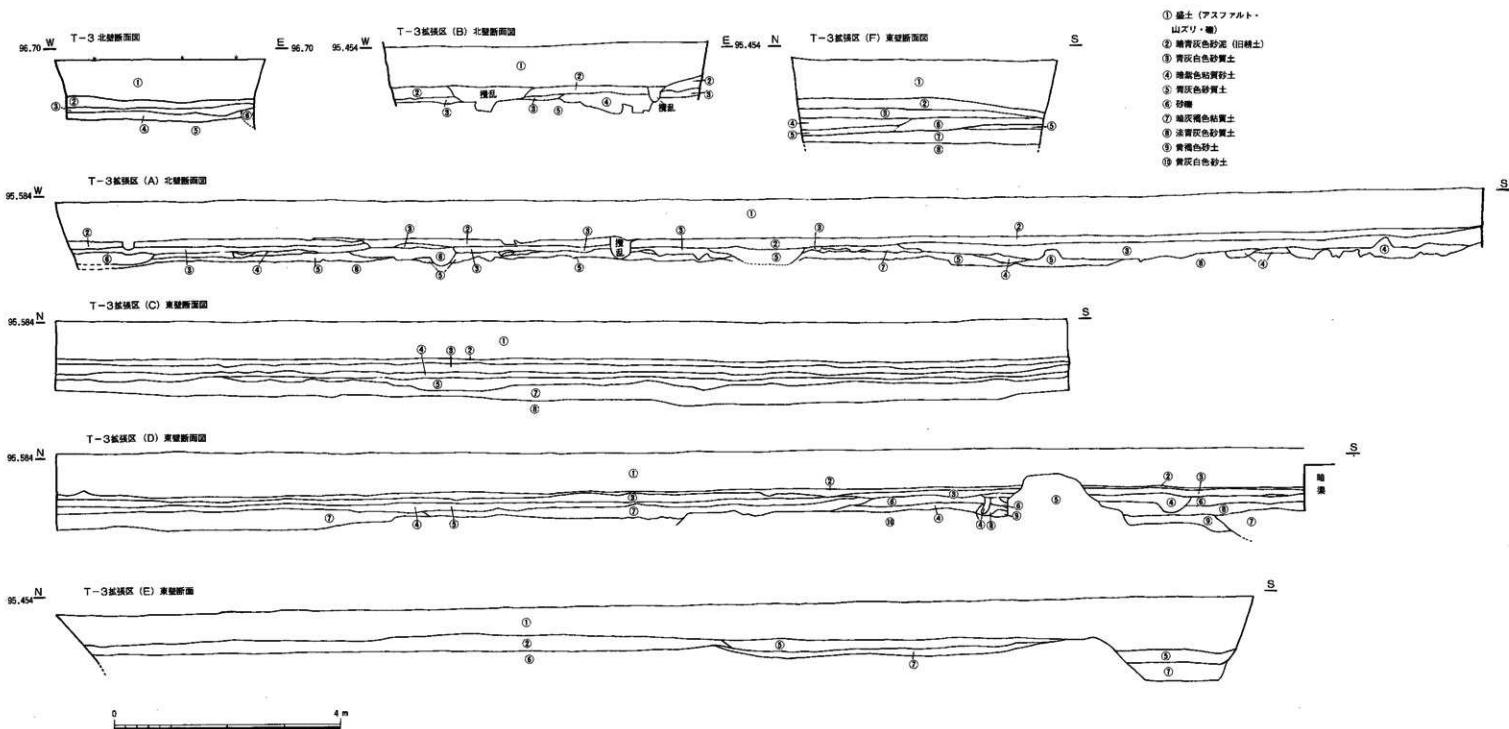
C区 B区の東に接して設定したトレンチで、比較的安定した地山が検出されたので、できるだけ広げて調査を実施した。土層は、補装ならびに路床が、80～90cmあり、その下に旧耕土とみられる暗茶色砂泥を除去すると、暗灰褐色粘質土の安定した地山面が表われ、鎌倉時代以降とみられる土師器皿片などが出土した。このため、この面を精査したが、明確な遺構の検出には到らなかった。

D区 C区で検出された地山面が、トレンチのはば中央付近までのびていたが、ここで砂礫層にかわった。そこで粘土層を掘り下げたところ、約70cmで砂礫層が検出された。ここでも、C区と同じく明確な遺構は検出されなかった。

E区 関電のケーブルがすでに埋設されている部分があり、予定の南半分は調査できなかったが、D区と同じく、旧耕土直下で砂礫層ないし砂層が検出された。砂層から若干の土師器片が出土しており、自然木片などもみられるところから、旧河道であった可能性が推測される。



第7図 トレンチ設定図(2)



第8図 各トレンチ断面実測図(2)

III. ま　と　め

今回の調査では、結果的には、明確な遺構の検出はなかったが、市三宅遺跡の北端および、久野部遺跡の西への広がりが、ほぼ明らかになったと考える。ただ、今回の調査は、きわめて限定されたものであり、掘り下げも一定の限界があったため、下層遺構の存在は、今後とも留意すべきであろう。

図 版



T-8 近景(東より)



T-8 検出状況(西より)



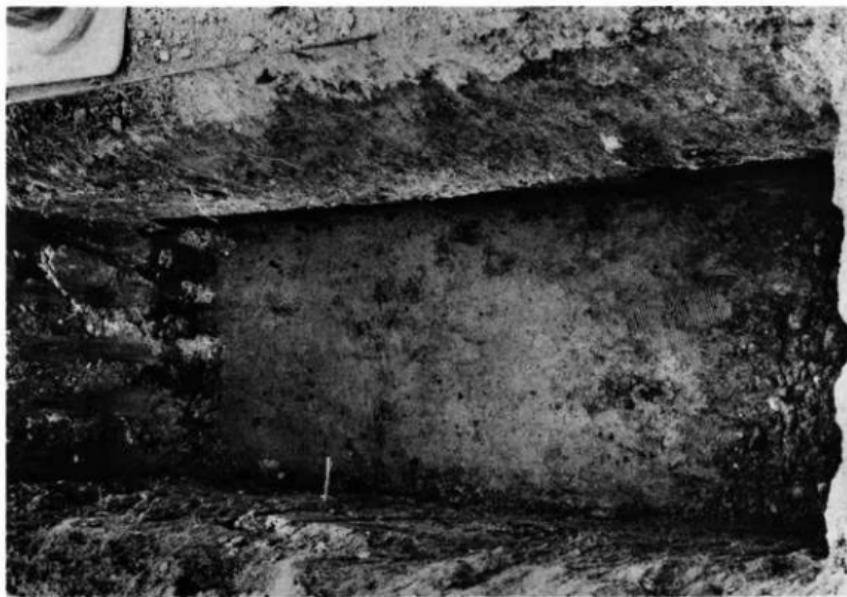
T-10 近景 (西より)



T-10 検出状況 (西より)



T-11 近景（西より）



T-11 検出状況（西より）



T-12 近景（西より）



T-5 拡張区近景（西より）



T-4 拡張区近景（南より）



T-4 拡張区断面（南より）



T-6 拡張区近景（南より）



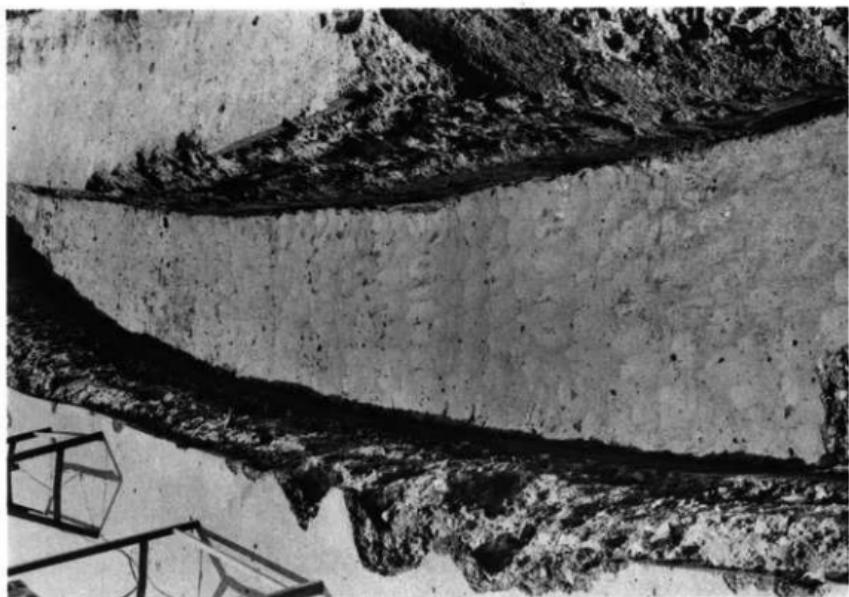
T-3(D) 調査状況（北より）



T-3(E) 近景(北より)



T-3(D) 近景(西より)



T-3(D) 近景(西より)



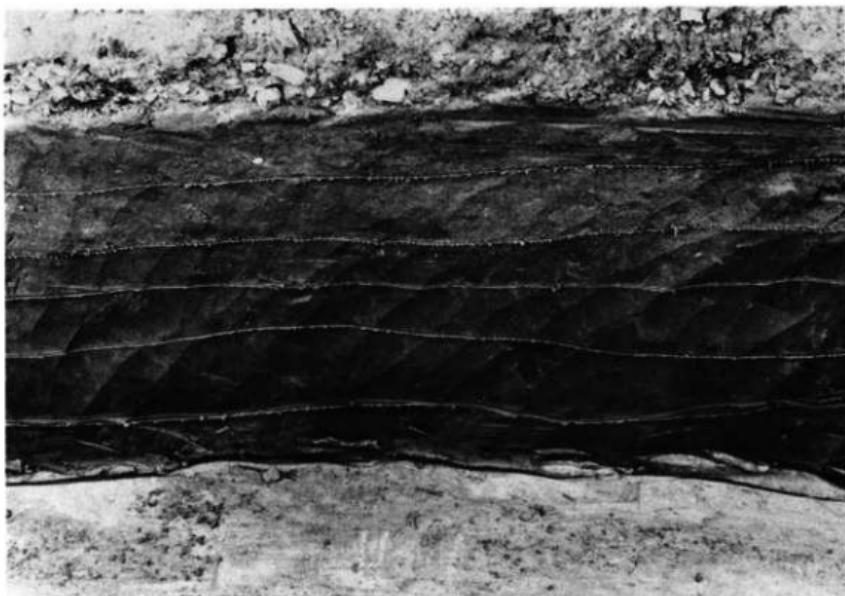
T-3(C) 近景(西より)



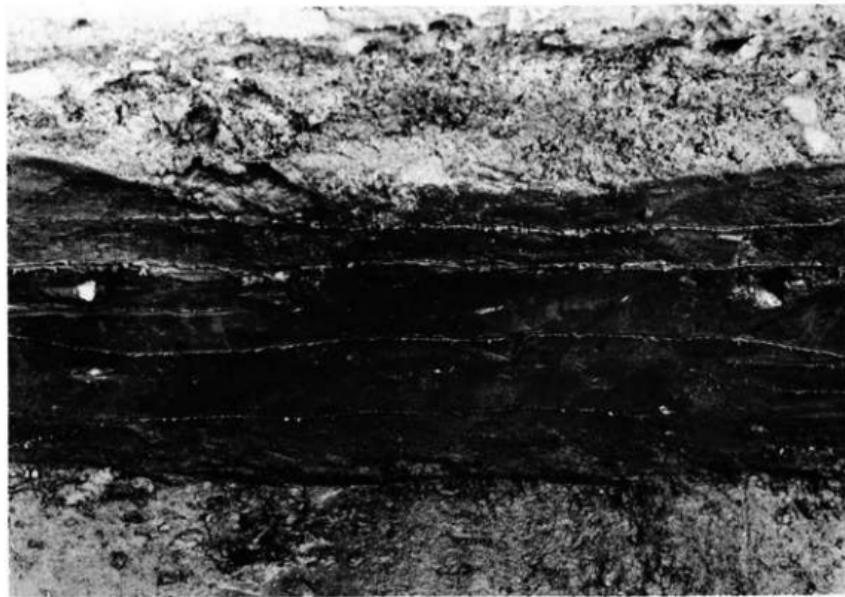
T-3(C) 近景(東より)



T-3(C) 近景(西より)



T-3(C) 断面(西より)



T-3(E) 断面(西より)

昭和 57 年 3 月

電ケーブル・関電引出管路埋設に伴う

市三宅遺跡発掘調査報告書

—滋賀県野洲町市三宅・久野部所在—

編集・発行 滋賀県教育委員会文化部文化財
保護課

大津市京町四丁目 1-1

電話 0775-24-1121

助成 滋賀県文化財保護協会
大津市瀬田南大壹町 1732-2
電話 0775-48-9781

印刷所 富士出版印刷株式会社
大津市札の辻 4-20